

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272400490		
法人名	社会福祉法人 奥津軽会		
事業所名	グループホーム八幡荘		
所在地	〒037-0309 青森県北津軽郡中泊町大字八幡字八幡32番地3		
自己評価作成日	平成28年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成28年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年間の行事を充実させて、利用者様に四季の移り変わりを感じていただけるように取り組んでいます。行事以外でも、担当職員が個別ケアに取り組むことにより、利用者様と職員の信頼関係を築き、笑顔で満足した生活が出来るよう支援しています。また、2ヶ月に1回八幡荘だよりを発行し、ご家族様との情報交換、連携に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

職員が皆明るく、利用者の笑顔と共に印象的である。上司が職員の意見を良く吸い上げており、職員が意見を出しやすい職場環境を整えている。事業所の収支決算書などの重要書類が、来訪者の誰もが見られるように置かれており、事業の透明化への取り組みが感じられる。高校生のボランティアを受け入れ、人材育成にも熱心に取り組まれている。また、利用者の喫煙・飲酒も、希望があれば応じられるように事業所の体制を整えている。事業所は駅が近く、敷地の一面にあるベンチからの眺望は山をはじめ、電車の走行も楽しめ、四季を十分に感じられる静かで落ち着いた場所にあり、扉と廊下で仕切られたディサービスセンターが併設されている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

公益社団法人青森県老人福祉協会

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくりとふれあい ニコニコ笑顔でやさしく あ～安心」を介護理念として掲げ、職員間で実践につなげています。	職員が話し合いを重ね介護理念を作成している。朝礼後に職員全員で唱和してから業務に入っている。また、時勢や利用者の状況に合わせて、理念を変更するかどうか職員間で都度検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	暖かい季節は、地域の一員として町内のゴミ拾い活動(月に1回)を実施。他には年に1回の納涼祭の時に地域住民に参加を呼び掛け交流を図っています。	町会に加入し、月に1回程度ゴミ拾い活動に参加している。納涼祭の時は、町会や行政等へ案内を出し、今年は70名程が参加されている。夏は近所の方が野菜を持って来てくれ、地域の一員としての交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員がキャラバンメイトとして地域の方々に認知症についての理解や支援を求める活動を実践しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域住民や行政の方に参加していただき、運営推進会議を行い、参加者の意見などを今後の課題として、サービス向上につなげていくようにしています。	運営推進会議メンバーは、利用者本人、家族、町会長、町役場職員、地域包括支援センターが参加して意見を出し合い、サービス向上に繋げている。会議録は何時、誰でも閲覧が出来る様になっている。	会議録は、閲覧だけでなく会議のメンバーに直接届ける等の工夫により、顔の見える関係が築け、意見を頂ける機会が増える事に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町で行われている地域ケア会議に参加し、他事業所職員や行政の方との交流を図り、協力関係を築いています。	月1回、町役場主催の地域ケア会議が開催されており、参加している。会議には民生委員も参加しており協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の心得に「拘束、抑制のないケア」を掲げ、身体拘束についてのマニュアルを設置し、全職員が理解し、身体拘束ゼロに努めています。また、玄関は日中施錠せず、出入り自由にしています。	身体拘束ゼロについてのマニュアルを作成し、事業所内で身体拘束ゼロの為の研修会を行い、周知を図っている。また、玄関には人の出入りが分かるよう感知センサーが付けられており、玄関は日中施錠されておらず、自由に出入りできる仕組みになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修会にて「身体拘束について」の勉強会を開き、全職員に周知。また、身体拘束マニュアルをいつでも見られるようにし、拘束防止に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、自立支援事業や成年後見制度について学び、内部勉強会を開き、理解に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に利用契約書にて内容を説明し、利用者様または家族より理解していただき、同意を得たうえで契約しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に意見箱を設置し、いつでも意見があれば聞き入れる体制を取っています。また、面会時には家族の方に近況報告し、要望などを受け入れています。	玄関の下駄箱上に意見箱を設置している。家族が利用料金支払いの為来所された時は、意見・要望を聞き取りし、それを管理者へ報告し、運営に反映できる体制に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	決定事項や行事、入所者様の受け入れなどについて、その都度話し合いの場を設け、意見交換しています。	月1回の職員会議で出た意見は、管理者が理事長へ報告している。運営に関する職員の意見や要望は、施設長や管理者が会議の他、その都度聞くようにして備品の購入等に資すように意思の疎通を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が向上心を持って業務に取り組めるよう、各自役割を持ち、就業できるような環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修会の年間計画を立て、スキルアップできるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム事業所(9事業所)と、3ヶ月に1度、交流会と題して会合を開き、勉強会や情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の状態観察を行い、コミュニケーションを取りながら、不安や要望を聞き、ケアプランに取り入れ、毎日のサービス提供に取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から必要な情報を得てアセスメントし、ケアプランに取り入れ、家族の協力を得ながら一緒に支援していけるよう、連絡を密にし、信頼関係に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態に合わせ、出来ることや出来ないことを把握し、家族と相談しながらサービス提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の得意分野で力を発揮して頂くように、食事の準備、盛り付け、掃除等、職員と一緒にいき、苦労や喜びを共感できる関係づくりに努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に2回、家族会を開催し、利用者様、家族の方、職員の交流に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様、家族の要望があれば、馴染みの理容店や友人宅などに職員が送迎して出掛け、支援しています。	利用者や家族の要望があれば、車椅子の方でも職員が馴染みの友人宅や理容院等まで、車で送迎できるように体制を整えている。併設ディサービスセンター利用者の友人の訪問も歓迎している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格、人間関係を把握し、利用者様同士の良い関係づくり、環境づくりに努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設サービス終了後も、必要に応じて他の介護施設の紹介や、在宅での支援方法などの相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケース担当者が中心になり、ケース会議にて利用者様の意向、希望を把握し、要望などに即対応できる体制づくりに努めています。	ケース担当者が中心となり、「課題整理総括表」を活用しながら、利用者や家族の意向を把握し、ケアプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、家族より、これまでの生活歴、生活環境等の情報収集に努め、サービス内容に取り入れて、経過についてはケース会議にて話し合っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日常生活を状態観察して、個別に日誌入力し、個々の生活リズムの把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、家族の要望を聞き、1ヶ月に1度のケース会議で出された課題について、職員の意見を計画に反映させ、ケアプランを作成して評価しています。	月に1回、ケース担当者が支援経過・評価を記録し、管理者が各担当者からの支援経過等を集計して再評価を行い、担当者へフィードバックしている。ケース担当者の意見を基に現状に即したケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌(ケース日誌)にパソコン入力し、担当者が1ヶ月に1度評価を行い、介護計画の見直しに反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への通院、買い物等の外出は、利用者様又は家族の要望を取り入れ、いつでも対応できる体制をとり、柔軟なサービスを提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて、地域住民や行政などと意見交換し、取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、家族の希望する医療機関に受診し、かかりつけ医と事業所との情報交換、また、検査の時は家族に同行を依頼するなど、家族も含め、連携を密にし、支援しています。	事業所で協力医療機関を制定している他、希望があればかかりつけ医との関係も途切れないよう情報交換に努めている。受診同行が必要な場合は、家族にその都度相談し、密に連携する事を心掛けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設（デイサービスセンター）の看護師と連携を図り、情報を共有して、利用者様の健康管理等の支援に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、お互いにサマリーを提出する等、情報を共有して、退院後も生活への延長がスムーズに行えるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期等のあり方については、事業所で出来る範囲を、医療機関も含め家族と話し合い、相談し対応しています。	重度化・終末期等のあり方について事業所で出来る範囲を入居時に十分に説明し、理解を頂いている。医療機関や利用者、家族の協力が得られれば、可能な限り意向に沿う形で対応できる体制を整えたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習を受講し、修了証を取得。急変時の対応をマニュアル化して備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については、1年に2回（昼夜想定）の火災避難訓練を行い、地域の消防団にも施設内見学して頂くなど、協力を得ています。	玄関や事務室内にハザードマップを掲示し、緊急避難場所の確認を行っている。停電・寒さ対策として、反射ストーブを備えている。緊急時は地域の消防団3名に連絡が届く体制を整えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の性格や特性を職員全員が把握し、失禁や汚染時にはさり気なく声掛けして誘導するなど、プライバシーを損ねない声掛け、対応を心掛けています。	利用者の記録は、職員全員が把握・閲覧できるように事務室内に置かれている。失禁や汚染時には、他の利用者の前で話さず、優しい声掛けでさりげなく居室へ誘導する事を心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自分の希望や要望が言いやすい雰囲気作りに努め、本人の力量に応じて自己決定出来るように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活はホーム側で1日の流れとして決まっていますが、利用者様個人の身体、精神状態に合わせ、個人のペースに合わせた柔軟な対応に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容時や外出時(買い物や通院等)に洋服や帽子などおしゃれに気配りしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年に1回嗜好調査を実施、それを参考に献立作成。食事の準備や後片付けは利用者様と職員が一緒に行い、昼食は利用者様と職員が同じ食事を一緒に会話しながら頂き、楽しい食事の時間を過ごしています。	年1回嗜好調査を利用者や家族に向け実施し、調査を参考にして職員が献立と栄養表を作成している。食材の買い物や後片付けは、利用者と職員が一緒に行い、その人の力を活かせるよう配慮し、支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材係が栄養バランスを考え、カロリー計算してメニューを作成。また、食事摂取量、水分量も個々に管理しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔うがいを実施し、夜間は義歯洗浄を行い、口腔内の清潔保持に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行い、力量に応じてトイレでの排泄、自立支援に努めています。	ケアプランに排泄パターンを明記し、排泄の自立に向けた声掛けや誘導等の支援を行っている。実際に、入院中はオムツを使用し、車椅子対応だった利用者が、排泄の自立に向けた支援を徹底した結果、現在は一人で日中トイレで排泄が出来るようになった方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防対策として、個々に腹部マッサージを取り入れたり、飲食の際に乳製品の提供等、工夫しながら便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日(週3回)や入浴時間はホーム側で決めています。安全面には十分考慮し、職員配置の工夫、利用者様の体調を見ながら安心して入浴して頂ける様、支援しています。	入浴前にバイタルチェックを行い、体調変化に配慮している。入浴日や時間帯は決められているが、必要時には利用者の都合に合わせて入浴できる様にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動時間に余暇や行事活動を取り入れ、夜間の安眠につながるよう、支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書を設置し、変更時には申し送り、記録を残して全職員に周知しています。また、内服薬変更による症状の変化時(活気低下など)には、医療機関のドクターに報告、連絡、相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	担当者が中心となり、利用者一人ひとりに合った役割、楽しみを促し、働きかけ、生活リハビリを行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の要望に沿って、随時散歩、買い物などの外出支援を行い、年間行事においては、遠足などの日帰り旅行を計画し、実施しています。	年間の行事担当職員が居る他、月1回の行事会議に職員が全員出席し、利用者が全員外出ができるような行事を立案している。毎週火・木曜日は利用者への個別支援の日と定め、要望に沿って買い物など外出支援の対応をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様本人や家族が希望される場合には、本人所持金として預け、買い物の際には本人所持金で支払いをしていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は、いつでも自由にしており、手紙についても、本人、家族の希望があれば、代筆するなどの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所では、みんなでくつろげるように照明の明るさ、テレビやラジカセの音量に配慮し、また、季節ごとに壁面の模様替えを行い、居心地の良い空間づくりに努めています。	共有スペースでは、テレビの音量が静かに流れ、加湿器を設置し、衛生面に配慮している様子が伺える。玄関先には、わらで編まれた草履が飾られており、利用者が馴染み深く、居心地良く過ごせるような工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、廊下にソファや長椅子を設置し、利用者同士で談話できるようなスペースを確保し、自由に使用していただけるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様本人の使い慣れた物、なじみのある物を持参していただけるように、家族にも働きかけ、利用者様が安心して日常生活が送れるように配慮しています。	居室には利用者の使い慣れた物や、位牌など、大事な物も区別なく持参して頂けるよう配慮し、夜間必要時にはポータブルトイレの配置にも留意し、「利用者の安心した生活を目指す」理念の実践に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、廊下、トイレに手すりを取り付け、安全に立ち上がりや自立歩行が出来るように環境面にも配慮しています。		